

サーキット・ライダー 2005年 4月号

与える者になる

わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエスご自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。

使徒言行録 20 : 33 - 35.

復活祭も早々にお祝いし、4月、5月とこれから教会は、特別集会などにはありますが、しばらくは平常の活動が続きます。このような時こそ、クリスチャンとしての姿勢を見直してみるのも良いのではないのでしょうか。これまでホーム・ページの牧師の部屋、雑記帳に書いたり、このサーキットでも触れましたが、アメリカ人の若い世代、特に子育て世代は教会に自分の信仰を求めたり、霊的成長の為に来るのではなく、子どものプログラム、日曜学校があるか、自分の子どもの年齢に合ったクラスがあるか、子どもが沢山いるか・・・などで教会に来る傾向があります。それでもまだ教会に行かないよりは良いのかもしれませんが、私はどうも納得できないものがあります。

多くのアメリカの教会がその問題に直面しています。パークリッジのアメリカ人教会も全員が揃うと15～20人くらい子どもたちはいるのですが、だんだんと年齢が高くなり、半数以上が今や中高生になり、小学生、幼稚園のクラスは小さくなってしまいました。また中高生、特に高校生になると学校のスポーツ、やれ野球だ、フットボールだ、サッカーだ、バスケットだ、陸上競技だと年中何かに参加している子が大半です。加えて、ボーイスカウト、ガールスカウト、ブラスバンド、エトセトラと課外活動に忙しく、教会には来なくなってしまいます。親も子ども日曜日には疲れて寝ているか、日曜日でもスポーツの試合があり遠くまで遠征していることも多々あります。当然、日曜学校の子どもたちの出席率は低下しますが、そんな折、初めて来訪する小さな子どもを連れた夫婦がその様子を見て「ここの教会にはうちの子供に合ったプログラムがない」との理由で、次の週は他の教会に行くということが何度となくありました。教会学校を長年指導しているご婦人とその話をしたことがあります。私もそのご婦人も「そこで他に行かないで留まってくれば、他の人たちが後から来た時に一緒にクラスを作り直せるのに、残念。」と思いました。私はその都度、親の信仰は、日々の霊的な恵みはどうなんだろう？と考えずにはいらませんでした。子どものプログラムも大切ですが、自分の信仰生活をなおざりにしているようにしか思えませんでしたから。

また教会にしばらく来ている30代、40代の方が何人かいますが、彼らに「教会員になりませんか？」と尋ねたところ、ある方は当惑されたような顔をして、しばらくして来なくなり、またある方は「考えて見ます。」と応えたものの、その後、何度か尋ねてみましたが、同じ返答をするばかりで、いっこうに教会員になって奉仕をしようという姿勢は見られません。それでもまだ来ているだけ良いのでしょうか・・・。それらの人達は、いつまでもたっても教会の会員にならず、教会の諸々の委員会、例えば宣教委員会、社会奉仕委員会、礼拝委員会、牧師信徒関係委員会、フェローシップ（交わり）委員会等々に関わって更なる奉仕をするということもありません。いつも礼拝に来て、礼拝後の交わり、コーヒーやクッキーをいただきお喋りをするということには顔をだしますが、そこまで止まり。いつまでもお客さんでいることに安住しているように見受けられます。一方、60代後半、70代、80代の男性、女性の教会員で、この教会の会員になって40年以上とか50年以上とかいう方たちが、教会を愛し、コーヒーやクッキーの用意をしたり、諸々の委員会に入って活動を続け、教会を通して社会に奉仕されている姿には頭が下がります。また耳が遠くなっているご婦人や腰が曲がりつつあるご婦人が、他者にコーヒーなどを勧め接待している様子が涙がでることもあります。

冒頭の言葉は使徒言行録の中で語られたパウロの言葉ですが、受けることよりも与えることの大事さを強調しています。これは全てに言えるのではないかと思います。自分が「得る」ために教会に行く、得るために何かをする、自分の方を向いてもらいから人に、恋人に親切にする、自分が褒めてもらいから、善行に励むというのではなく、受ける、受けないに関わらず、たとえ何も得られないと分かっている、奉仕をする、人助けをする、という方がどれほど美しいでしょう。本来、教会はそういった人の集まりであるはずなのに・・・と思う今日この頃です。

吉松 純

* 礼拝：午後4時。Jr.教会（教会学校）：午後4時時、礼拝に出席後、分級に進みます。

* 祈りたい方の為に礼拝堂を午後3時30分より開放しています。どうぞご利用ください。

* 聖日予定：

4月 3日：自由祈禱会、Jr.教会：絵画、言葉集めとユーリズミー、聖餐式礼拝。

10日：自由祈禱会、Jr.教会：手染めウール画、ユーリズミー、礼拝、司会：荒美俊三兄。

17日：自由祈禱会、Jr.教会：クッキング、聖日礼拝、司会：荒美俊三兄。

24日：自由祈禱会、Jr.教会：私たちにできる奉仕。司会：荒美和子姉。

5月 1日：自由祈禱会、Jr.教会、聖餐式礼拝。

* 集会、行事予定と報告

* 4月17日（日）午後2時より、パークリッジ合同メソジスト教会、組合派教会、改革派教会、テンプル・エマニュエル・ユダヤ教寺院の聖歌隊が協賛で合唱曲エリヤを歌う特別コンサートが組合派教会であります。どうぞお出かけ下さい。別紙詳細をご覧ください。

* 「親分はイエス様」の鈴木啓之牧師をお迎えして、ニューヨーク、ニュージャージー、コネチカットの日本語教会協賛で特別伝道集会が18日－22日まであります。詳しくは別紙をご覧ください。また鈴木牧師の特別伝道の為の献金もご協力下さい。

* 4月24日（日）、午後1時に教会駐車場に集合しパターソンのSt. Philip伝道を訪問します。St. Philip伝道は貧しい人達、ホームレスの人達へのスープ・キッチン、路傍伝道を毎日しています。私たちも彼らの奉仕から、自分たちの奉仕を学びます。どうぞご参加下さい。詳しくは吉松牧師まで。

* 御協力お願い致します。献金の宛名はUMC-JAでお願いします。

* インドネシア沖地震と津波の被害国への救援献金を始めました。現在、インドの教会及び被害者への直接送金及び被害の最も大きかったインドネシアへの送金を計画しています。ご協力お願いします。

* 新潟中越地震の被災者の方々への救援献金をお願いします。現地の教会を通して被災者の方へ送ります。

* ハーベスト・タイム放映の為、献金、お祈りのご協力をお願いいたします。

* 使用済み切手を集めています。ご協力下さい。消印のついた切手の周り1センチくらいの余白を残して切とって下さい。切手は日本キリスト教海外医療協力会（JOCs）に送ります。JOCsは切手を換金し得られた収益金で海外に医療関係者を送ると共に医療関係者の育成をしています。

* HOPE（The Heart of Pediatric Electrophysiology）というボランティア団体にもご協力下さい。

Electrophysiology という特有の心臓病を患う子供を救う為、寄付金を募り患者や家族に送ったり、病院などの情報交換をしています。募金を下さる方はあて先をHOPEとしてください。

* 一昨年よりケニアの恵まれない子供達やエイズの患者さん為に特別献金をしています。ご協力下さい。

連絡先：英語オフィス（201）391-5499 日本語及びファックス（201）505-0347

ホームページ：<http://umc-japan.org> 吉松牧師宅（201）391-2208 pastor@umc-japan.org

教会学校担当：松尾タカエ姉（201）802-1769 takae17A@AOL.com